

| | |
|-----------------------------------|---|
| 巻頭言：100年の知識を100年先も | 1 |
| 特集：2021年度 新規加盟館紹介「小田原市立小田原駅東口図書館」 | 2 |
| 「東京農業大学農学部図書館」 | 3 |
| 2021年度 新規開設館紹介「神奈川大学みなとみらい図書館」 | 4 |
| 事務局からの報告 | 5 |
| 連載：わたしのイチオン | |
| 「相模原市立相模大野図書館 ～展示を通じた交流～」 | 6 |

100年の知識を100年先も

神奈川県図書館協会副会長（横浜市中央図書館長）

下澤 明久

2021年4月に神奈川県図書館協会副会長に就任しました、横浜市中央図書館長の下澤です。どうぞよろしくお願いいたします。

横浜市立図書館は、1921年6月に横浜公園内仮閲覧所で図書の閲覧を開始しました。この間、関東大震災による建物・蔵書の焼失、第二次世界大戦時の一時接收など様々な困難を乗り越え、2021年6月、開業100周年を迎えることができました。

これもひとえに利用者の皆様、また本市図書館の運営にご協力をいただいた協会加盟館の皆様ののおかげです。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

6月には神奈川県立図書館長をはじめ、関係者の皆様の多くの御臨席を賜り、100周年記念式典・講演会を執り行いました。式典では、読み聞かせや図書の修理など、これまで市立図書館の運営を支えてくださったボランティアの皆様には感謝の意を表し、表彰状及び感謝状の贈呈を行いました。当協会でも毎年度、長きにわたり図書館の運営に貢献された方に対し協会表彰を行っています。市民の方との協働が、図書館サービスの充実にとって欠かせない要素になっていることを改めて実

感しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、ボランティアの活動休止など、これまで推し進めて来た協働の取組が難しい図書館も多いことと推察します。しかし、このような時こそ、当協会がこれまで培ってきた図書館間のネットワークを生かす時ではないでしょうか。コロナの状況下での図書館の運営、また新たな図書館サービスや市民協働のアイデアについて、加盟館どうしの情報交換が活発になされ、県下図書館の発展につながることを切に願います。

本市図書館は、身近で便利な図書館サービスの充実を目指し、今年3月には電子書籍の貸出やオンライン対面朗読サービスを開始しました。今年度は、移動図書館事業の拡大、図書取次サービス実施拠点の増設などを計画しています。

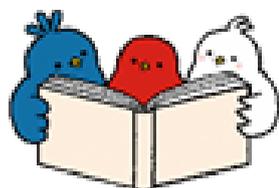
開業100周年のキャッチフレーズは「100年の知識を100年先も」。困難な状況ではありますが、利用者の皆様、協会加盟館の皆様と手を取り合いながら、これからの時代を支える情報の拠点、地域をつなぐ拠点として、図書館のさらなる充実を目指してまいります。

新規加盟館紹介

小田原市立小田原駅東口図書館

小田原駅に隣接する、ミナカ小田原6階にある当館は「アクセスしやすい出会う図書館」をコンセプトに、「次世代育成」「まちの活性化」「利用者層の拡大」を柱として、令和2年10月に開館しました。

蔵書可能数は8万冊（開架6万冊・閉架2万冊）で、全資料をICタグで管理し、自動貸出機による貸し出し、セルフでの「予約本コーナー」が利用可能です。館内は森をイメージした落ち着いたデザインとなっています。



北原白秋の童謡「赤い鳥小鳥」をモチーフにしたキャラクター

「エントランス」には木のオブジェが印象的な「小田原情報・企画展示コーナー」があり、地域情報や小田原ゆかりの作家やその作品を紹介しています。



エントランス



城の見えるテラス

高層階にあり、眺望の良さを生かした「お城の見えるテラス」では、小田原城と周辺の緑を見ながら、飲食を楽しむことができます。

「こどもコーナー」はベージュとモスグリーンを基調とした、緑のある閲覧席を中心に、子どもと保護者がゆったりと楽しめるスペースとなっています。また同コーナー内にある「おはなし広場」は、同じフロアにある「おだびよ子育て支援センター」とガラスパーテーションを隔てて繋がっているため、開放し、合同でのよみきかせなどの連携事業も行っています。



こどもコーナー

「多目的スペース」は、各種講演会・企画展等イベントの会場として、また夏休み期間中は、学習室として活用しています。

かつては宿場町として栄え、現在は鉄道5路線が交わる交通の要所として発展してきた小田原の中心に位置する図書館として、その利便性を活かし、課題解決のための情報提供やイベントを通して、多くの人が集い、地域とつながる「場」でありたいと考えております。

【開館時間】

平日 9:00～21:00

土日祝 9:00～18:00

【休館日】

毎月第4月曜日 年末年始ほか

新規加盟館紹介

東京農業大学農学部図書館



東京農業大学農学部図書館は、1998年4月に大学の組織改正により、農学部が東京都世田谷区から神奈川県厚木市に移転し、厚木キャンパスが開設され図書館分室（その後名称変更）として設置されました。

厚木キャンパスは厚木市西方の高台に位置し、図書館は本部棟の3階にあります。現在、農学部には農学科、動物科学科、生物資源開発学科およびデザイン農学科の4学科と大学院が設置され、約2,500名の学生・大学院生と教職員が在籍しています。

本館では、多様化、高度化していく各専門分野を中心に専門書や関連書籍の収集、また、電子書籍・雑誌・論文検索等のサービスを通じて教育研究の支援を行うとともに、情報教育及びコンピュータセンターの機能を有しております。50,000冊の開架図書コーナーの他、閲覧コーナーや情報検索コーナーがあります。図書資料については、世田谷キャンパスおよびオホーツクキャンパス所蔵資料の利用も可能で、厚木市立図書館とも利用協定を結んでいます。最新情報収集のため、教職員による選書に加え、学生による選書にも対応しています。

コンピュータネットワーク利用環境は、世田谷キャンパスの情報教育センターとの連携により、情報サービスの提供に努めており、本部棟の2階には学生がパソコンを自由に利用できる「パソコン自習室」も備えています。



新規開設館紹介

神奈川大学みなとみらい図書館



神奈川大学は、2021年4月にみなとみらいキャンパスを開設しました。みなとみらい駅や横浜駅から徒歩でアクセス可能な、本学では初めての高層型キャンパスです。既存キャンパスからグローバル系学部である経営学部、外国語学部、国際日本学部が移転し、約5,000名の学生が学んでいます。また、人と知の交流拠点である「ソーシャルコモンズ」を低層階（1F～3F）に設置するなど、地域との連携にも力を入れています。

図書館はそのソーシャルコモンズ内（2, 3F）に位置し、約1,800㎡の床面積に約17万冊の収蔵能力と約250席の閲覧席を擁しています。設置学部の学問分野に合わせ、洋書や雑誌も幅広く収集しています。学生規模に対してスペースが限られた図書館ではありますが、キャンパスの共有部に設置されたラーニングコモンズにも約4万冊分の書架や閲覧席を設置することで規模を補いつつ、学生にとって資料に囲まれたキャンパスであることを志向しています。

みなとみらい図書館では、全国の大学図書館では初となる貸出スマホアプリを導入しました。アプリを利用することで、図書館内の資料はもちろん、キャンパスの各階に配架された資料もその場で貸出手続を行うことができます。資料の持出防止管理をキャンパス全体で行うことで、授業やゼミ、グループ学習などの際、建物内のどこにでも気軽に資料を持ち出せる環境を整えました。

また、自動貸出機をアプリと合わせて導入することで、カウンターにおける貸出業務の省力化を実現しました。省力化によって生まれたスタッフの余力はレファレンス業務に振り分け、各学部の専任担当となるスタッフとして「リエゾンライブラリアン」を配置しました。リエゾンライブラリアンは各学部の教員・学生の窓口となり、学部の専門性に即したガイダンスの実施などに携わっていく予定です。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大によりソーシャルディスタンスの確保が社会的に求められていますが、貸出アプリや自動貸出機には対人接触機会を減らす効果もあります。その他、座席数の縮減、消毒用アルコールの設置、定期的な清掃といった感染対策を実施し、学生にとって安心・安全な図書館の環境を維持しています。

なお、現在は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休止していますが、既存キャンパスの図書館と同様に一般公開も実施する予定です。また、ソーシャルコモンズ1Fは、ファブラボや観光ラウンジ、社会連携センター、カフェなど学生をはじめ市民や観光客、社会人などが自由に集い、交流できるフロアとなっており、図書館もこれらの機能と一体となり、社会連携を実現していきます。

今後も神奈川大学みなとみらい図書館ならではのサービスや取り組みを実施していく予定です。



事務局からの報告

令和3年度人材育成事業、図書館総合展、貸出物品について

【令和3年度人材育成事業】

今年度、5つの事業を対象としていた人材育成事業ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、3つの事業がオンライン開催へ変更となりました。そのため、出張が不要となり、参加費も無料となったケースもあったことから、次の事業を、助成対象から除外いたしました。

- 1) 関東・甲信越静岡地区 図書館地区別研修
(新潟) (オンライン開催のため)
- 2) 全国公共図書館研究集会<サービス、総合・経営部門> (福岡)
(オンライン開催・参加費無料のため)
- 3) 全国公共図書館研究集会<児童青少年部門>
(岩手) (オンライン開催・参加費無料のため)

また、6月8日(火)～9日(水)にオンラインにて開催されました「専門図書館協議会全国研究集会」の参加報告を、神奈川県図書館協会のWEBサイト内人材育成事業のページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

【図書館総合展にオンライン出展します】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、昨年は参加を見合わせた図書館総合展。

今年度はブースページに出展いたします。

加盟館より情報提供いただいたWEBコンテンツを、図書館総合展のホームページで紹介いたします。

その他に、広報委員会で編集作業を行っている「神奈川の図書館一覧」も掲載予定です。

会期中に是非アクセスをしてみてください。

「神奈川の図書館一覧」はリーフレットとしても発行し、加盟館に順次配布する予定です。

- 図書館総合展 2021_ONLINE_plus
会期：2021年11月1日(月)～30日(火)
- 形式：ウェブサイトと小会場群(サテライト会場)で行うハイブリッド形式
- URL：<https://www.libraryfair.jp/>
- 主催：図書館総合展運営委員会
- 運営：株式会社カルチャー・ジャパン

【貸出物品】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン対応が進む中、オンライン活動にご利用いただける物品を事務局にて購入いたしました。

つきましては、貸出のための規程、マニュアル、申請書様式等を作成いたしましたので、各委員会の活動や神図協に関わる業務、各加盟館の事業にご活用いただければ幸いです。

詳しくは、神奈川県図書館協会WEBサイト内、会員のページにあります掲示版をご確認ください。

(例)

- ICレコーダー ※①
- デジタルカメラ
- プロジェクター ※②
- ビデオカメラレコーダー ※③
- COMPACT アドバンス三脚
- microSDXC カード(128GB)
- 飛沫防止パネル

サイズ：W1200mm×H1100mm

※要組み立て(工具不要)



「相模原市立相模大野図書館 ～展示を通じた交流～」

相模原市立相模大野図書館は、近隣の中学校・高校との連携を通じ、YA世代と図書館とを繋ぐ取り組みを行っています。近年は図書館見学ツアーや子ども図書館まつりのスタッフとして参加してもらうなど、活動の幅を広げていました。

ところが、昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大により連携事業は中止。今年も生徒や利用者が集まるようなイベントを企画することができません。司書教諭の先生と何度も打合せをして、今年は「読書の木」展示を行うことになりました。

読書の木とは、展示を通しておすすめ本の紹介をしたり、「読んだよ」「面白かったよ」というようなコメントをやり取りしたりするものです。

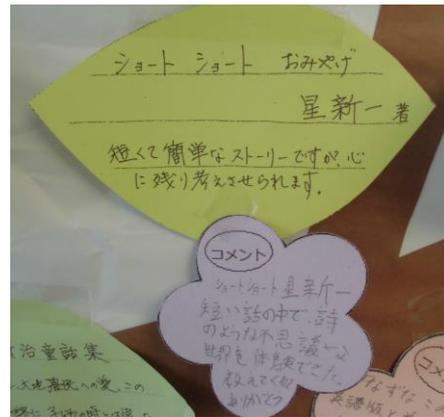
相模大野図書館では、3つの木を展示し、館内にコメント用のカードを設置しました。

- ①「中高生から子どもへおすすめの本」の木
- ②「中高生から中高生へおすすめの本」の木
- ③「おとなから中高生へおすすめの本」の木



①と②は連携校の生徒が作成したPOPを貼り付けた状態で展示しました。すると、おすすめの本を読んだ子どもや同世代の中高生から「面白かった」「私もこの本好きです」などと、毎日少しずつコメントが増えていきました。中には自分のおすすめ本を書いてくれる人もいました。

③は図書館利用者から「中高生におすすめしたい本」を募りました。初めはまっさらだった木が、徐々にコメントカードで埋まり、コメントを通して利用者同士で交流している様子も伺えました。



読書の木展示は今年の7月20日から8月31日まで実施し、連携校生徒のPOPを含めて175枚のコメントカードで展示が彩られました。



また、展示に参加してくれた方へ形になるものを提供したいと思い、9月には展示に寄せられたコメントをすべて文字起こしして、1冊のブックリストにして配布しました。

展示期間中に「タウンページさがみはら南区版」で紹介されたこともあり、予想以上の反響があった事業でした。ここで得た発見や学びを活かして、これからの地域に根ざした図書館づくりを考えていきたいです。

(相模原市立相模大野図書館 齋藤 美帆)